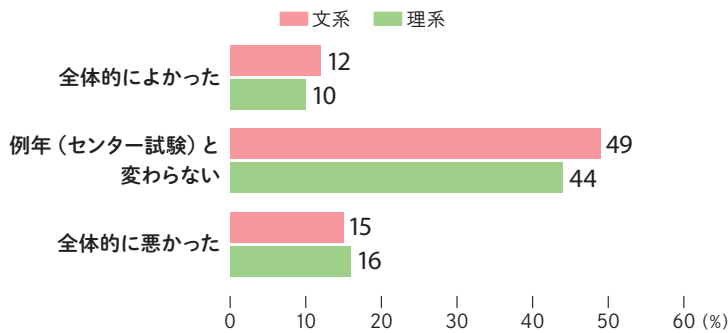


生徒に学習の自走化を促す指導が「大学入学共通テスト」の結果につながる

ピックアップデータ

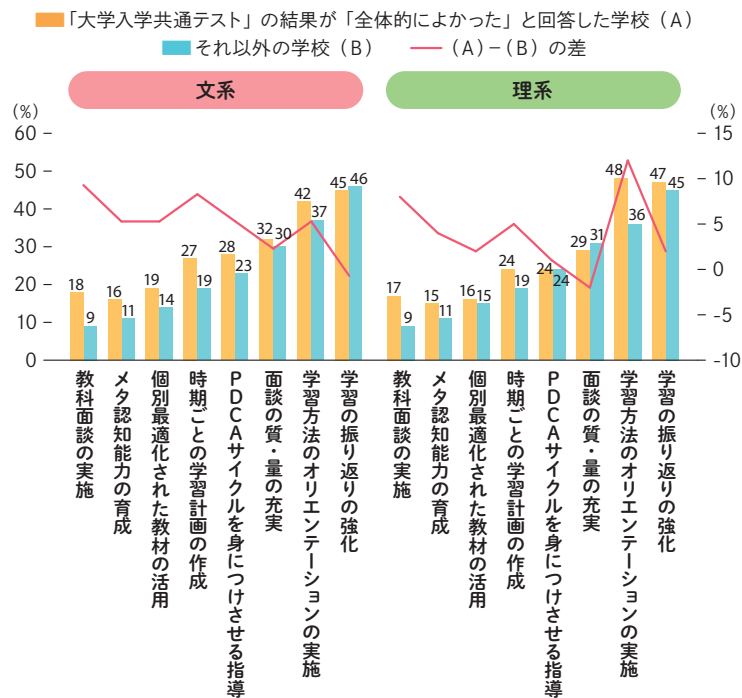
ベネッセ教育情報センター「教育・入試改革対応に関する調査」(*)

データ1 「大学入学共通テスト」の結果に対する認識



注) 数値は、「大学入学共通テスト」の受験者がいると回答した学校(939校)に対する割合。「その他」を選択した学校があるため、グラフの合計値は100%とならない。

データ2 「大学入学共通テスト」の結果の認識別・20年度卒業生に実施した指導



注) 「大学入学共通テスト」の結果が「『全体的によかった』と回答した学校」は、文系で109校、理系で98校、「それ以外の学校」は、文系で830校、理系で841校。

* 調査概要◎【調査方法】郵送法による依頼、ファクス・ウェブによる回答、【調査対象】全国の国公立・私立高等学校、中等教育学校の進路担当者、【調査期間】2021年2～3月、【有効回収数】1,024

2021年度大学入試から始まった「大学入学共通テスト」(以下、共通テスト)。1回目の共通テストを終えて、全国の教師はどのような手応えや課題を感じたのか、ベネッセ教育情報センターが、2021年2～3月の期間でアンケート調査を行った。

難化が予想されていた共通テストだったが、平均点は20年度センター試験よりも上昇。本調査でも、共通テストの結果に対する認識が、「例年(センター試験)と変わらない」と回答した学校は約半数だった(データ1)。一方で、「自学自習ができた生徒とそうでない生徒とで、結果に差があった」という所感が多く見られた。

そこで着目したのが、共通テストの結果が「全体的によかった」と回答した約1割の学校だ。「全体的によかった」と回答した学校と、それ以外の学校が行った指導を比較すると、「個別最適化された教材の活用」や「面談の質・量の充実」などの、教師から生徒に機会を与える取り組みよりも、「教科面談の実施」「時期ごとの学習計画の作成」「学習方法のオリエンテーションの実施」など、生徒が学習において自走するための取り組みを、「全体的によかった」と回答した学校の方が多く実施していることが分かった(データ2)。コロナ禍で指導の機会が制限された中、生徒が自ら学習の質を高められるよう、生徒の自走を促したことが、共通テストの結果につながったのだろう。

21年度大学入試に関する本誌8月号の特集も、ぜひ、ご覧いただきたい。